

腹部前に下げる。

嫌いやや (4)「嫌いやらい」と同じ手まね。(4) 掌を胸にあてると直ぐに強く前方へ弾ね返らすように離す。「胸くそが悪い」の意味。

違約 左手の曲げた小指に、右手のこれも曲げた小指を下からかけて(約束)から、次に右手の小指をはずして下へ落とす。「約束を破る」のである。

卑いやしい 左の掌の上に、指頭を上にした右手の親指を載せて、そのまま両手を下へ下げる。身分の低いこと。

以来 として一から。「しして」は「何々して」「何々があつて」と動作、事の完了、即ち左手掌の上に右手掌を叩き降す。「から」は「時(時の流れ)」を見よ)

○「結婚来して以来」とするには、結婚して一時の流れ。

依頼 任かせる—お願ひ。任かせるは、一

任と同じ手まね。お願ひは、左手の腕を右手の拳で叩いて、その五指を開いて拜む。

苛い立つ 「焦せる」「周章てる」と同じ手まねであるが、この場合両手の運動を一層激しく速やく。

入い日 掌を下向けて五指の指頭を右にさした左手を地平線と見なして、右手の親指と人差指をまるく曲げて半輪を形どり、それを太陽として、左手の前すれすれに下へ落して行く。日没の光景。「夕方」の手まねにもなる

入用 必要—金。

いろいろ 胸の前で指頭を左にした親指と人差指をコの字形に開いた右手掌を下に向けて、上向きに反転させては下に向ける運動を繰り返しながら肘を右へ引いて行く。人差指と親指と交互に「これも」「それも」と指示した身振りから、集約された手まねと見てよい。この手まねは「事」「物」の意味にも

転化する。

色 赤―青―いろいろ。「赤や青など」の意味である。

居る 握り拳にした両手をそれぞれ左右頭の両側に掲げてから、両腕の肘を下へ引き降ろす。どっしりと居坐る身振り。

祝う めでたい―云う。

云われる 「云う」の受身。五指の指頭を集め合わせたのを、自分の顔に向けて、ぱつと五指を開く。先方の言葉が自分に向かって放ち送られたこと。

隠居 腹の前で掌を内側にした両手の五指を下に垂らしてから、次に胸もとに上へ引き寄せる（仕事事業から手を引く意味）。そしてその両手の掌を上向けて、両脚の上に載せる。何にもしない両手を膝に置いている姿。

印刷 五指の指頭を前方にさした左手の掌の上を右手の掌で前方に刷る。手刷り印刷の

動作。

印紙 人差指と中指の指頭を舌の上に持つて行き、唾をつける真似をして、次に左手の掌の上に右手の二指で印紙を貼りつける真似
淫売婦 片目で指頭を上にした中指と人指の間から（掌は前向き）覗き見る真似をして女性（小指）を差わす。店の格子の間から外を覗いて遊客を待つ娼婦。

印判 五指で印判を持つ態で、口もとに持つて行き、口の息で印判に残っている印肉を温める真似をして、左手の掌の上に印判を押す身振り。

ウ

飢える 五指の指頭を下方にさし掌を内側にした両手で腹を圧さえ、そのまま下へさすり降して行く。腹の皮が背につくばかりの空